



平成 28 年 5 月 27 日

岡山市が初めて開催する LGBT シンポジウムに岡山大学が協力 ～さんかくウィーク 2016 のイベントテーマは「性的マイノリティ」～

岡山市の男女共同参画推進週間「さんかくウィーク 2016」のオープニングイベントテーマ「性的マイノリティ」は、岡山市が初めて取り上げたテーマです。

LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）など性的指向や性自認に関連した悩みを持つ人の割合は、20 人に 1 人以上とされ、悩みを言い出しにくい社会では自殺したりうつになったりする率も高いことが知られています。

多様な性の在り方を認め、すべての人に優しい社会の実現を目指す岡山市は、LGBT・性的マイノリティに関する正しい理解を深めるため、初となる啓発シンポジウム「虹の橋をかけよう（多様なセクシュアリティ）」を 6 月 5 日に開催し、パネル展示を行います。本学もその趣旨に賛同し、大学院保健学研究科の中塚幹也教授が本シンポジウムで講演します。

1. 背景

岡山市は、岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例（さんかく条例）の規定に基づき、毎年 6 月 21 日から 27 日までの 1 週間を男女共同参画推進週間「さんかくウィーク」と定め、さまざまな行事を行っています。男女共同参画社会とは、男女平等な社会ということではなく、すべての人が性別に関わらず活躍できる社会です。

岡山市は、「さんかくウィーク」のオープニングイベントとして、今回初めて「性的マイノリティ」を取り上げました。LGBT（L:レズビアン・G:ゲイ・B:バイセクシャル・T:トランスジェンダー）など、性的指向や性自認に関連した悩みを持つ人の割合は 20 人に 1 人以上とされます。

2016 年 4 月には、文部科学省も性的マイノリティの子どもへの支援のための資料を公表しました。また、同性婚と同様の権利を一部認める「同性パートナーシップ」を公的に認める条例を作る自治体も増加しています。しかし、自治体によって意識の差が大きいのが現状です。

岡山市では、冊子「岡山市の職員が知っておきたい性的マイノリティ（LGBT）の基礎知識」を作成し、市の職員が正しい知識を持つことを推進しています。今回は、セミナー、パネルディスカッション、またパネル展示や関連図書の紹介、資料の配布などを通じて市民への適切な情報の提供を企画しました。また、6 月 1 日～7 月 4 日の 1 か月間にわたり、さんかく岡山ギャラリースペースでパネル展示も行います。

「岡山大学ジェンダークリニック」は、わが国では最大の性同一性障害の診療拠点であり、多くの性同一性障害当事者が受診しています。また、本学では、キャンパス内で性的マイノリティについてのセミナーを開催してきました。岡山市さんかくウィークにおける



PRESS RELEASE

今回の企画にあたり、本学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室、岡山大学医学部保健学科・大学院保健学研究科は、その趣旨に賛同し協力します。

2. イベント概要

- 名称 さんかくウィーク2016 オープニングイベント
LGBT シンポジウム「虹の橋をかけよう（多様なセクシュアリティ）」
- 日時 平成28年6月5日（日）13:00～15:10
- 場所 さんかく岡山（岡山市北区表町三丁目 14-1-201）
- プログラム
 - 第1部 セミナー「LGBTとは？今 私たちにできること」13:00～14:00
講師：中塚 幹也（岡山大学大学院保健学研究科教授）
 - 第2部 パネルディスカッション「大切な存在について考えよう」14:00～15:10
コーディネータ：光本 順（岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授）

※関連のパネル展示 6月1日～7月4日、さんかく岡山ギャラリースペース

<お問い合わせ>

岡山大学大学院保健学研究科
教授 中塚 幹也
(電話番号) 086-235-6538
(FAX番号) 086-235-6538